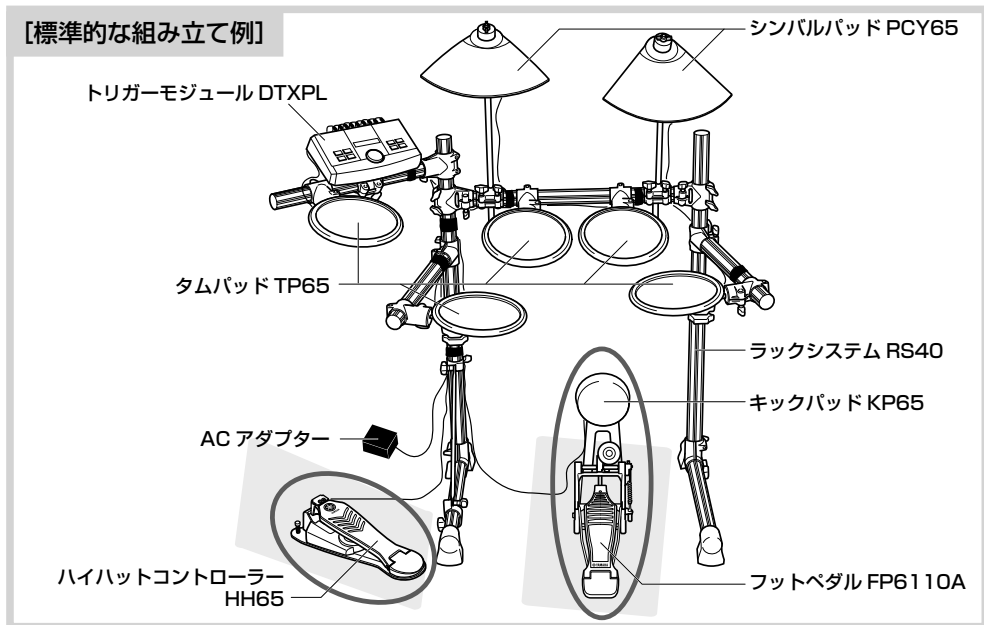


YAMAHA SILENT SESSION DRUM™ DTXPLOER ベーシックセット 組立説明書

この説明書では、DTXPLOER ベーシックセットの標準的な組み立て方を説明します。下図のように組み立てと配線を行ないます。電源を入れる前の段階を説明します。

重要 組み立てには『ラックシステム RS40』、『パッドセット DTLK9』、『トリガーモジュール DTXPL』の入った3つの梱包箱が必要です。また、手順④でドライバー (+) を使用します。あらかじめご用意ください。

注意 別売のドラムマットがある場合には初めに床に敷いておきます。ドラムマットが無い場合、床に傷がつくのを防ぐため下図の○印で示す2つの部品を扱うときは必ず床に梱包材の段ボールなどを敷いて組み立てを行なってください。



※ パッドセット (DTLK9) に同梱されているパッド類の保証につきましては、DTLK9取扱説明書 (本書ではありません) に記載の保証書をご利用ください。

安全上のご注意 ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

※ お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
 ※ パッドやラック、ペダルに付属の組立説明書や取扱説明書も必ずお読みください。

記号表示について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

- ⚠ 「ご注意ください」という注意喚起を示します。
- 🚫 ~しないでくださいという「禁止」を示します。
- 🔴 「必ず実行」していただきたいという強制を示します。

警告	この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。
🔴	ケガをするおそれがありますので、小さいお子様が取り扱いされる際は必ず保護者が付き添ってください。
🔴	シンバルホルダーやタムホルダーの先端部分はとがっています。ケガの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶん注意してください。
🔴	キックパッドやフットペダルに取り付けられているすれ防止用スパーは先端部分がとがっています。ケガの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶん注意してください。
🔴	この製品を設置される際、固定用のナット等はしっかり締め付けてください。また、固定用ナット類をゆるめる際は急激にゆるめないでください。パッドが落下したり、ラック、パイプ、スタンドの部品の落下、転倒などにより、ケガの原因となります。
🚫	この製品を設置される際、不安定な場所 (水平でない場所、ぐらついている台の上など) に設置しないでください。転倒、落下などにより、ケガの原因となります。
🚫	この製品を、不安定な場所 (水平でない場所、ぐらついている台の上など) に設置しないでください。転倒、落下などにより、ケガの原因となります。
🔴	この製品を設置される際、接続ケーブルなどの引き回しにはじゅうぶん注意してください。足を掛けて転倒するなど、ケガの原因となります。
🚫	この製品を分解したり、改造したりしないでください。ケガまたは故障の原因となります。
🚫	ラックに腰かけたり踏み台にしないでください。転倒したり壊れたりして、ケガの原因となります。

※ 製品の仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

1 ラックシステム RS40 の中身を確認しましょう

パッケージを開けて、すべての部品がそろっていることを確認してください。

ラックシステム RS40

- RS40 本体 (1 組)
- 止めネジ (2 個)
- ケーブルバンド (10 本)
- 組立説明書 (1 部)
 - ・RS40
 - ※ 本書ではありません。

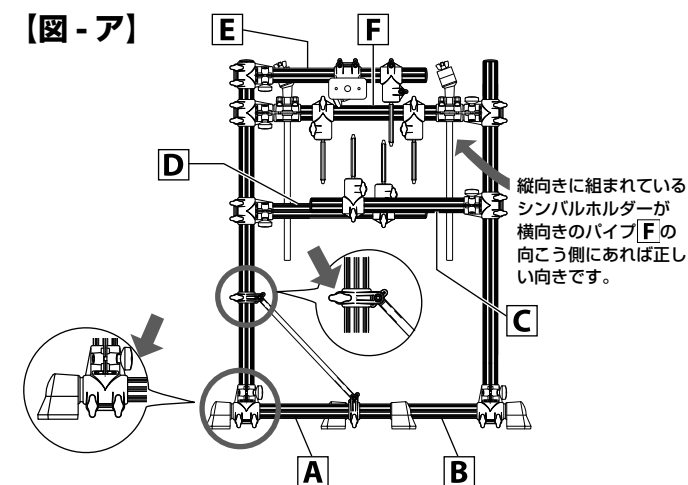
※ ④でトリガーモジュールを取り付けるときに使います。

※ ⑥でケーブルを固定するときに使います。(予備も含まれています。)

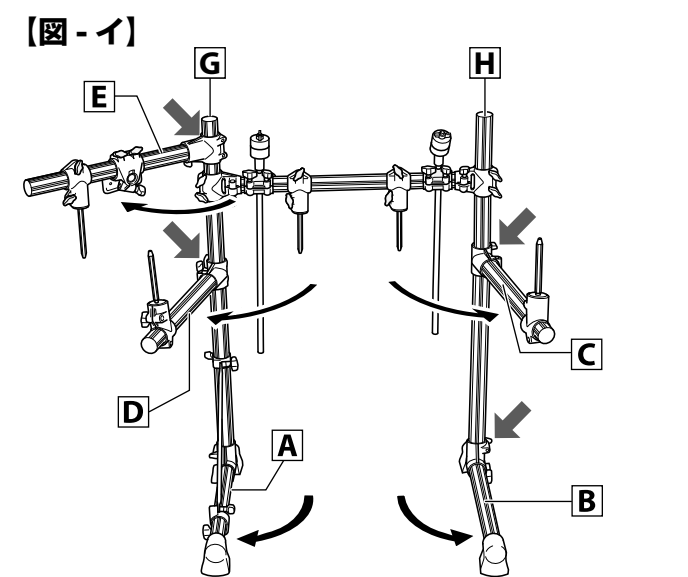
2 ラックを組み立てましょう

次の手順に従って RS40 本体を組み立ててください。
注意 パイプの端面にご注意ください。尖った部分で指にけがをすることがあります。

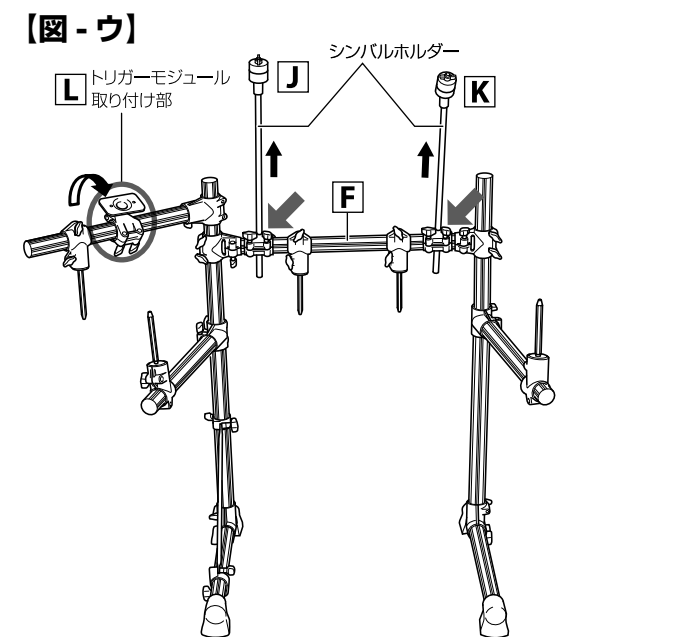
- 箱からラックを取り出して、緩衝用ダンボールやビニールをすべて取り外します。パイプに巻かれたビニール類は外しにくいので、組み立てながら外してください。
- 右の【図-A】をご覧ください。図のように、パイプ【F】に印刷されたYAMAHA ロゴを向こう側に向けてラックを立てます。立てたラックを片手で支えながら、【図-A】に○印で示す2か所のノブをもう一方の手でゆるめます。



- 右の【図-イ】をご覧ください。ラック左側の脚部 (パイプ【A】) をまっすぐ手前に回します。手順2でゆるめた2か所のノブを再度締めてしっかりと固定します。
- 右下外側のノブ (🔱の位置) をゆるめ、ラック右側の脚部 (パイプ【B】) をまっすぐ手前に回します。ゆるめたノブを締めてしっかりと固定します。
 以下、回す箇所についてはノブを順次ゆるめ、位置が決まったら締め直して固定します。ドラムは組み立て完了後、演奏しやすいように部品の取り付け角度の微調整を行なう必要がありますのでノブは締めすぎないようにご注意ください。
- 右のパイプ【C】の付け根に2つならんだノブ (右中段の🔱の位置) をゆるめ、パイプをラック中央から手前にやや開いた位置まで回します。ゆるめた2つのノブを締めて固定します。
- 同様に左のパイプ【D】の付け根に2つならんだノブ (左中段の🔱の位置) をゆるめ、パイプをラック中央から手前にやや開いた位置まで回します。ゆるめた2つのノブを締めて固定します。
- 上部のパイプ【E】の付け根に2つならんだノブ (左上段の🔱の位置) をゆるめ、パイプを左斜め手前まで回します。ゆるめた2つのノブを締めて固定します。
- ラック全体が安定していることを確認します。縦のパイプ【G】と【H】の上部をつかんで揺すってみて、もしラックがぐらつく場合は手順2~4でゆるめたノブを締め直してください。



- 右の【図-ウ】をご覧ください。左右のシンバルホルダー【J】と【K】のノブ (パイプ【F】の向こう側の🔱の位置) をゆるめ、シンバルホルダーを図のような高さまで上方向に引き出して垂直に立てます。ゆるめたノブをそれぞれ締めて固定します。
- 【図-ウ】の○印で示すトリガーモジュール取り付け部【L】のパイプに沿ってならんでいる2つのノブをゆるめます。取り付けたときにトリガーモジュールの操作パネル面が斜め上を向くようにトリガーモジュール取り付け部【L】を回します。力を入れて少しずつ回してください。ゆるめた2つのノブを締めて固定します。



3 パッドセットの中身とトリガーモジュールを確認しましょう

パッケージを開けたら、すべての部品がそろっていることを確認してください。

パッドセット DTLK9

- タムパッド TP65 (5 個)
- シンバルパッド PCY65 (2 個)
- フットペダル FP6110A (1 個)
- TP65 用 クランプボルト (5 個)
- ハイハットコントローラー HH65 (1 個)
- キックパッド KP65 (1 組)
- チューニング キー (1 個)
- 9ch マルチケーブル (1 本)
- 取扱説明書 (各1部)
 - ・TP65/65S
 - ・PCY65/65S
 - ・HH65
 - ・KP65

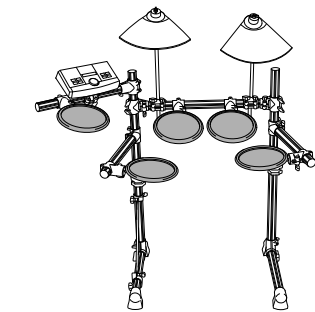
トリガーモジュール

- DTXPL (1 台)
- AC アダプター (1 個)

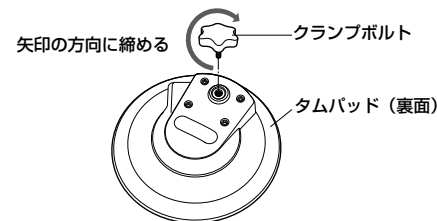
パッド類とトリガーモジュールを取り付けましょう

ラックにタムパッドなどを取り付け、キックパッドやハイハットコントローラーを配置してください。

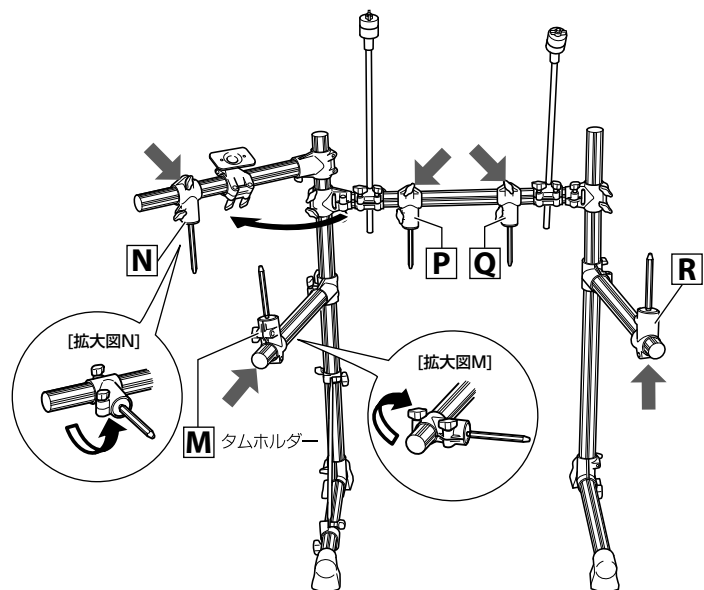
タムパッド TP65 を取り付ける



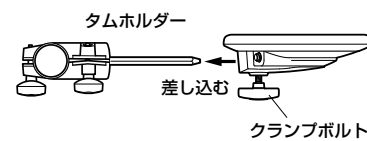
- 各タムパッドにクランプボルトを軽く締めおきます。(5～6回転程度)



- 左側のタムホルダー **M** のノブ (左中段の の位置) をゆるめ、タムホルダーを **【拡大図 M】** の矢印のように手前に倒し、水平より少し下向きの位置まで回します。ゆるめたノブを締めて固定します。



- タムホルダー **M** にタムパッド TP65 を差し込み、クランプボルトで締めてしっかりと固定します。

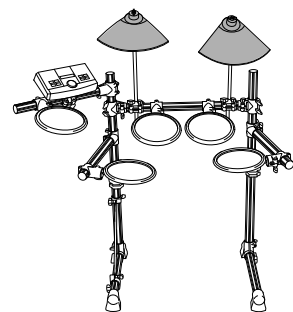


- 次に左上のタムホルダー **N** のノブ (左上段の の位置) をゆるめ、タムホルダーを **【拡大図 N】** の矢印のように起こして水平より少し下向きの位置まで回します。ゆるめたノブを締めて固定します。

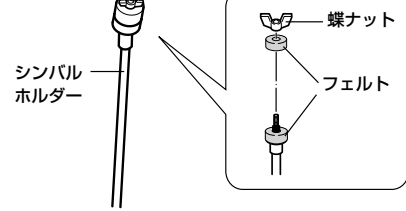
- タムホルダー **N** にタムパッド TP65 を差し込み、クランプボルトで締めてしっかりと固定します。

- 正面の **P**、**Q**、右側の **R** の3つのタムホルダーも同様に手順 **4** と **5** を繰り返し、順にタムパッド TP65 を取り付けます。

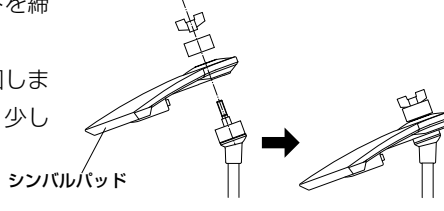
シンバルパッド PCY65 を取り付ける



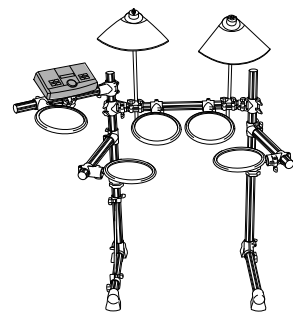
- シンバルホルダーの蝶ナットを外し、上の1つだけフェルトを取ります。



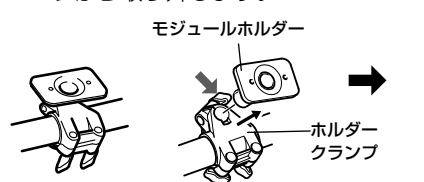
- シンバルホルダーにシンバルパッドを左のセット全体図のような向きで差し込み、その上にフェルトを戻してから蝶ナットを締めて固定します。蝶ナットは手応えがあるところまで回します。シンバルパッドの打面を叩いて、少し揺れる程度の締め具合で十分です。



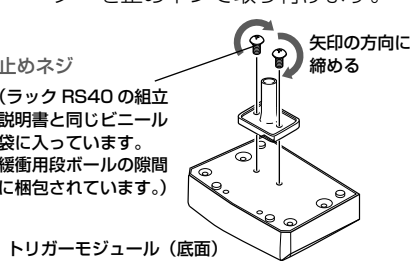
トリガーモジュール DTXP1 を取り付ける



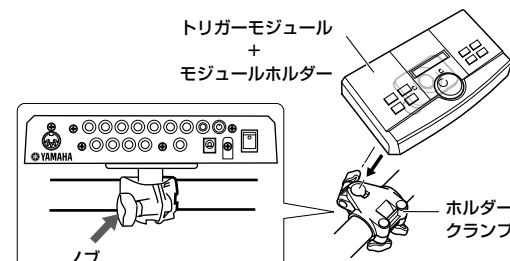
- 下のイラストに示すホルダークランプのノブ (の位置) をゆるめ、モジュールホルダーをホルダークランプから取り外します。



- ドライバー (+) を使い、トリガーモジュールの底面にモジュールホルダーを止めネジで取り付けます。

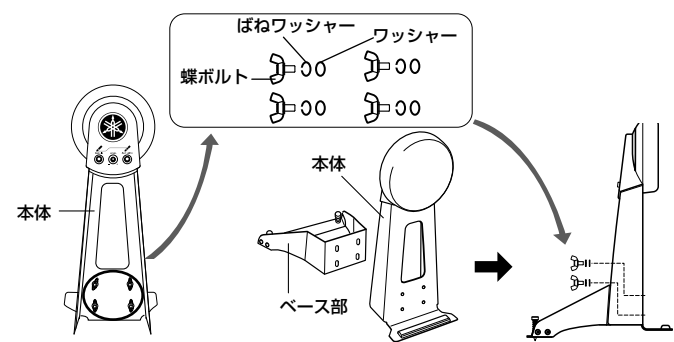


- モジュールホルダーをホルダークランプに差し込み、ノブを締めて固定します。



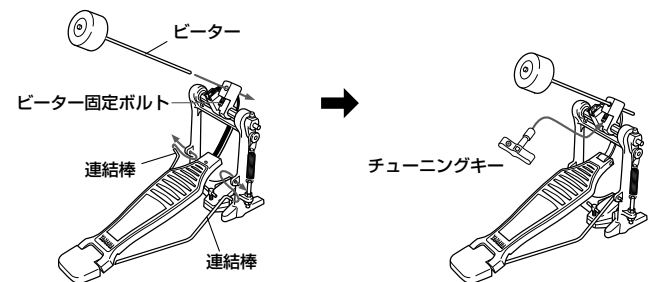
キックパッド KP65 を組み立てる

- ドラムマット (別売) などが無い場合は、床に傷をつけるのを防ぐため段ボールなどを敷きます。
- キックパッドの本体から蝶ボルト、ばねワッシャー、ワッシャーをいったん外し、4組それぞれ外したままの順番で近くに置きます。
※蝶ボルトとばねワッシャー、ワッシャーがばらばらになってしまった場合は、右図のような順番でばねワッシャー、ワッシャーを取り付けてください。
- ベースをボディに組み付け、手順 **1** で外した蝶ボルト、ばねワッシャー、ワッシャーを再び取り付けて固定します。

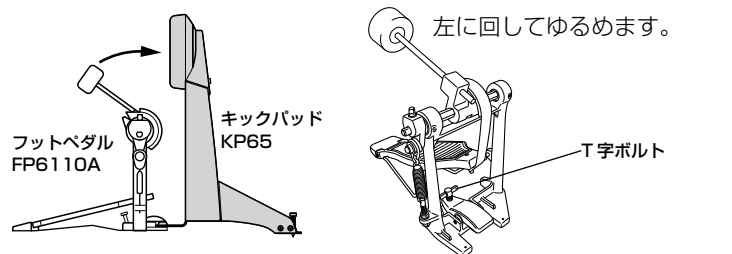


フットペダル FP6110A を組み立てる

- ドラムマット (別売) などが無い場合は、床に傷をつけるのを防ぐため段ボールなどを敷きます。
- 連結棒をフレームの穴に右図のように差し込みます。
- ピーターの先端が後ろから 15 mm 程度出る位置まで差し込み、チューニングキーでピーター固定ボルトを締めます。

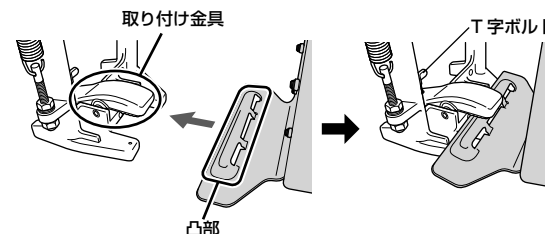


フットペダル FP6110A をキックパッド KP65 に取り付ける

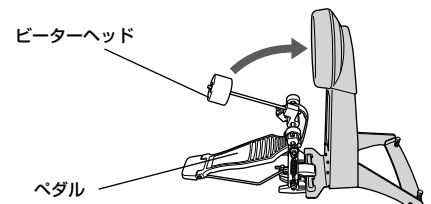


- フットペダルの T 字ボルトを左に回してゆるめます。

- フットペダルの取り付け金具にキックパッド前面下の凸部をはさみます。
- T 字ボルトを右に回して固定します。

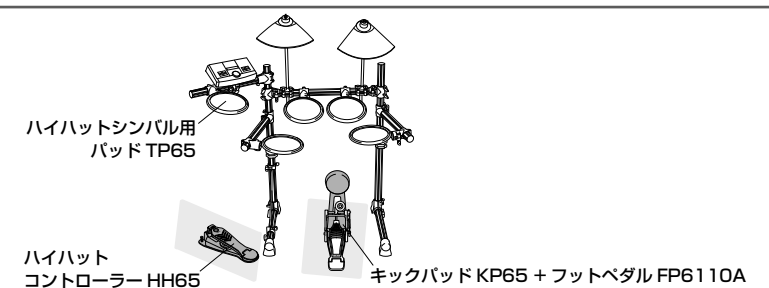


- ペダルを押してピーターヘッドがキックパッドの円のほぼ中心に当たるかどうか確認します。必要があればピーターの長さや左右の位置を調整します。



ハイハットコントローラー HH65 とキックパッド KP65 を設置する

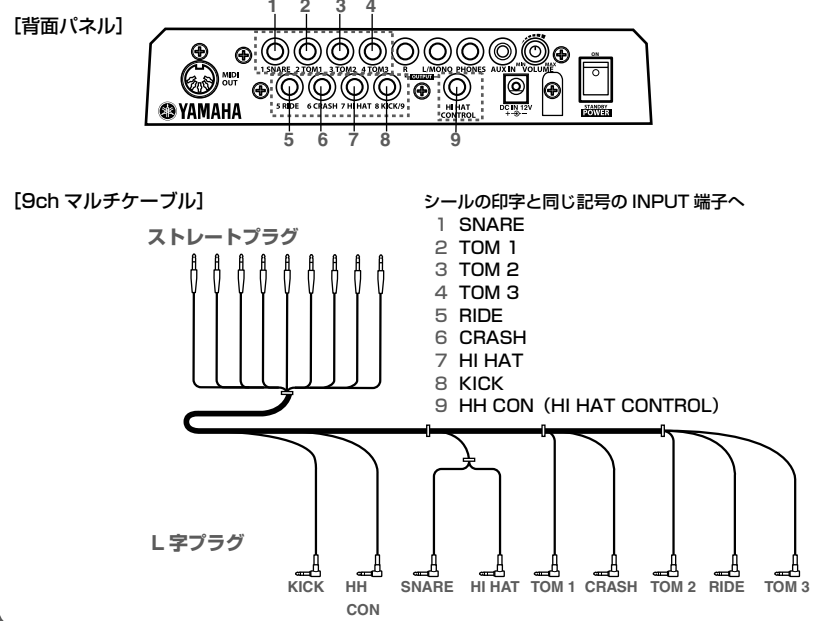
- ドラムマット (別売) などが無い場合は、床に傷をつけるのを防ぐため設置する場所に段ボールなどを敷きます。
- ハイハットコントローラー HH65 を、ハイハットシンバル用パッド TP65 の下に設置します。
- フットペダル FP6110A を取り付けしたキックパッド KP65 をラック中央の下に設置します。



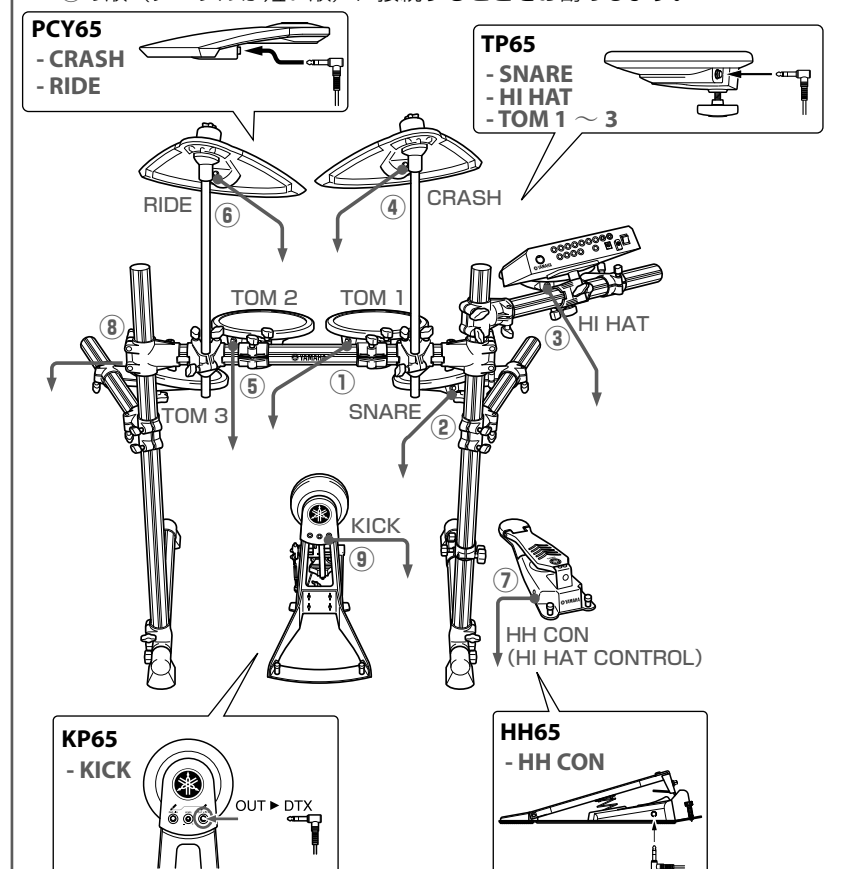
5 パッドとトリガーモジュールを接続しましょう

パッドの出力をトリガーモジュールのパッド入力に接続し、配線します。

- トリガーモジュール背面パネルの INPUT 端子に 9ch マルチケーブルの **ストレートプラグ** を差し込みます。標準セットアップでは、各プラグのシールに印字されているパッド名の記号に合わせて 9ch マルチケーブルを接続します。



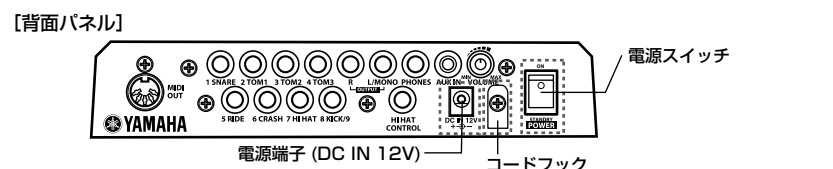
- 9ch マルチケーブルの **L 字プラグ** 側を各パッドに差し込みます。下図の①～⑨の順 (ケーブルが短い順) に接続することをお勧めします。



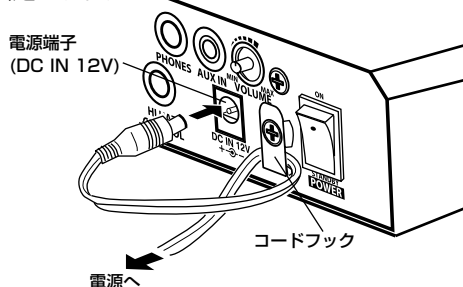
6 電源に接続しましょう

トリガーモジュールに AC アダプターを接続します。

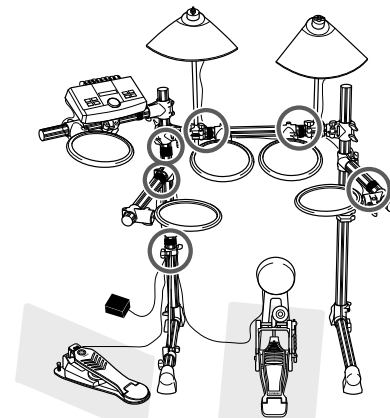
- 電源スイッチがオフになっていることを確かめます。



- AC アダプターを取り付け、電源に接続します。DC プラグを電源端子に接続し、抜け落ちを防ぐためにコードをコードフックに巻きつけて固定します。



- ケーブルバンドを使い、○印の6か所でケーブルをパイプに固定します。
【重要】 ケーブルが大きくなるっていると、演奏の妨げになることがあります。



これで組み立ては完了です!

実際に音を確認する場合は、電源スイッチを入れる前にアンプ内蔵スピーカーやヘッドフォンを接続してください。